

Title	言語文化学 Vol.21 編集後記
Author(s)	我田, 広之
Citation	大阪大学言語文化学. 21 p.80-p.80
Issue Date	2012-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77785
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

『言語文化学』第21号をお届けいたします。今号には当初論文13編および研究ノート1編の投稿応募がありましたが、そのうち実際に提出されたのは論文10編と研究ノート1編、厳正な査読を経て、最終的には論文5編を採択することになりました。論文および研究ノートの査読をお引き受けいただいた先生方にはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

また、学会の活動として、例年どおり大会を二度開催しましたが、本年度より両方とも大阪大学言語社会学会との合同大会とすることになりました。まず、6月30日の第39回大会は、箕面キャンパスで開催する初めての合同大会となり、言語社会学会のみなさんに準備から当日の運営に至るまで、すっかりお世話になりました。言語文化学会より8名、言語社会学会より11名、合計19名に上る発表者があり、豊中キャンパスから参加する学会員のために往復のバスをチャーターしました。秋の第40回大会は10月27日に豊中キャンパスにおいて開催され、言語文化学会7名、言語社会学会5名、合計12名の発表者が4会場に分かれて研究成果を披露しました。2007年10月の大阪外国語大学との統合後、言語文化学会は言語社会学会との連携を段階的に進めてきましたが、2012年度には世界言語研究センターを発展的に解消し、言語文化研究科を3専攻体制に改組することが予定されていますので、両学会にあっては、これまで以上の緊密な取り組みが要請されているように思われます。

ちなみに、私たち言語文化学会委員会は、本学会誌『言語文化学』の編集・発行および年2回の大会運営を主たる任務とし、教員委員8名（言語文化専攻の各講座から選出される7名と助教1名）、院生委員5名ならびに事務担当から構成されています。今年度につきましては、教員側は、石川弓子（事務局）、瀧田恵巳（学会誌担当）、早瀬尚子（秋の大会運営担当）、平山晃司（書記）、山本佳樹（副委員長）、力武京子（学会誌担当）、我田広之（委員長）、渡部眞一郎（春の大会運営担当）（五十音順）が役割分担し、院生委員は簡珮鈴、黄曉玲、謝佩真、潘寧、花井晶子の5名が務め、また立川真紀絵が事務局を補佐しました。なお、2008年度より、言語文化学会からのお知らせのホームページを開設しておりますので、一度閲覧していただけると幸いです（<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/gakkai-committee/>）。

最後に、学会事務局の業務を一手に担当してきた石川さんが本年度限りで助教の任期終了となりますので、これまでの本学会に向けられた献身的活動に対して、ここにあらためて感謝の意を表する次第です。石川さん、この3年間、本当にありがとうございました。

2012年2月

大阪大学言語文化学会委員長 我田広之